

管内経済情勢報告

Point

管内経済は、観光が引き続き好調に推移しているほか、個人消費は堅調、住宅建設は好調であることから、全体としては緩やかな回復が続いている。

主要項目の動向

①

個人消費

堅調となっている

個人消費をみると、百貨店は、ほぼ前年並みとなっている。主要スーパーは、新規出店もあって主力の飲食料品が堅調なことから、前年を上回っている。コンビニエンスストアも店舗数が増加していることから前年を上回っている。

耐久消費財の動向をみると、家電販売は、薄型テレビが好調

主要項目の動向

②

観光

引き続き好調に推移

観光入込客数は、長雨、台風の影響などから6月、7月は前年を下回ったものの、8月は前年を上回り、単月過去最高を記録した。

主要ホテルの客室稼働率は新規ホテルとの競合などから前年を下回っているものの、客室単価は客室改修などから前年を上回っている。観光関連施設入場者数は前年を上回っている。

主要項目の動向

③

雇用情勢

改善の動き続く

雇用情勢をみると、新規求人数、就業者数は増加しており、有効求人倍率は緩やかに改善していることから、改善の動きが続いている。



その他の項目の動向

■住宅建設 住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を上回っており、好調なものとなっている。

■設備投資 18年度の設備投資計画額を法人企業景気予測調査（18年7（9月期）でみると、全産業では57・7%の増加と前年度を上回る見通しとなっている。

■公共事業 公共事業の動向をみると、公共工事前払金保証請負額（累計）は、前年を下回っている。

■生産活動 生産活動をみると、金属製品では、県外向けで動きがみら

！総括判断

H18年7月

緩やかな回復が続いている

H18年10月

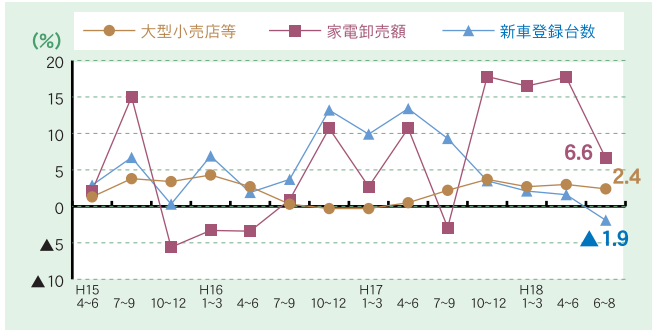
緩やかな回復が続いている

前回との比較





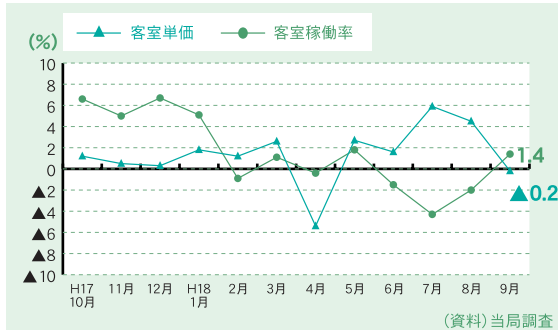
■大型小売店等販売額、家電卸売額、新車登録台数（前年比）



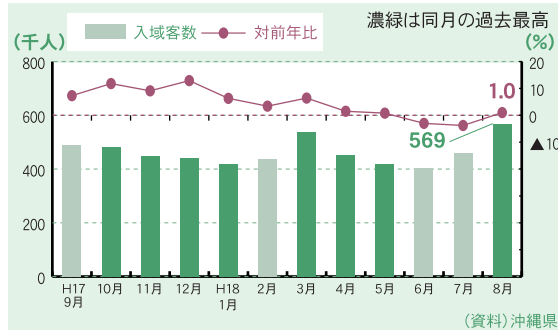
(資料)
百貨店、スーパー、コンビニ、
家電卸売額：当局調査
新車登録台数：
沖縄県自動車販売協会
中古車登録台数：
沖縄県中古車販売協会

なことから前年を上回っている。新車販売は普通乗用車及び軽自動車が前年を上回っているものの、小型乗用車が前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。中古車販売は前年を下回っている。
このように、個人消費は堅調なものとなっている。

■主要ホテルの客室稼働率（前年差）、客室単価（前年比）

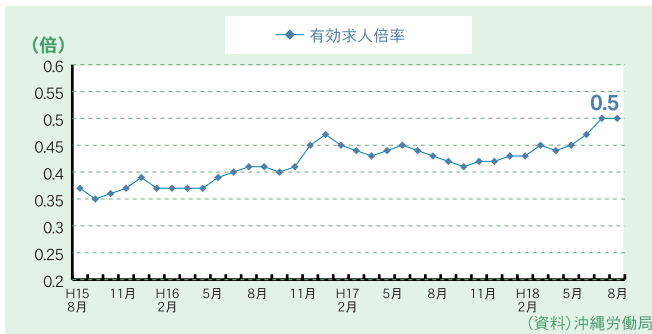


■観光入込客数

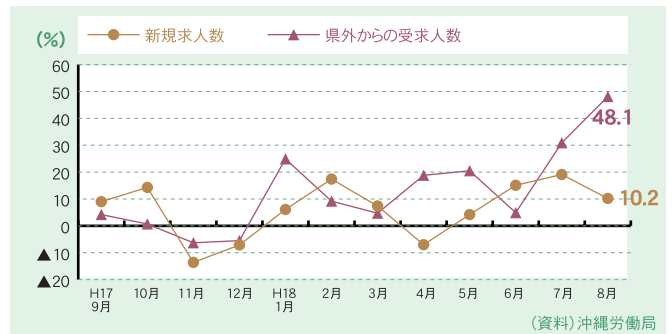


このように観光は引き続き好調に推移している。
先行きについても、予約状況は好調なものとなっている。

■有効求人倍率（季調値）



■新規求人数、県外からの受求人数（前年比）



この結果、全産業では「下降」超幅が縮小している。
企業の景況感 貴社の景況判断 B S Iを法人企業景況予測調査（18年7～9月期）でみると、製造業では上昇企業が減少していることから、「上昇」超幅が縮小している。非製造業では建設などは下降企業が減少していることから、「下降」超幅が縮小している。

18年度下期は、製造業、非製造業とも「増益」とみていることから、全産業では8・5%の「増益」見通しとなっている。
18年度下期は、製造業で「減益」とみているものの、非製造業で「増益」とみていることから、全産業では5・0%の「増益」見通しとなっている。

企業収益 経常利益を法人企業景況予測調査（18年7～9月期）で見ると、18年度上期は、製造業、非製造業とも「増益」とみていることから、全産業では11・3%の「増益」見込みとなっている。

このように、生産活動は引き続き弱含みで推移している。
企業収益 経常利益を法人企業景況予測調査（18年7～9月期）で見ると、18年度上期は、製造業、非製造業とも「増益」とみていることから、全産業では11・3%の「増益」見込みとなっている。